

看護科学プログラム

受験番号

科目名 小論文・適性検査

分野名 成人看護学

氏名

(全 1 枚中の 1 枚)

(裏面にわたる場合は、この線より下に解答すること。)

問1 アドバンス・ケア・プランニング(advance care planning: ACP)の定義および ACP の話し合いに含まれる 5 つの内容を述べなさい。

【出題の意図】

近年、終末期医療における倫理的問題に関連して、よりよい対応の一つとしてアドバンス・ケア・プランニング(advance care planning: ACP)が注目されている。がんと共に生きる生活者・家族、医療者にとって、終末期医療における倫理的問題は避けることのできない課題である。そのため、本設問では ACP の定義や内容に関する知識の程度を問う目的として出題した。

【解答例】

定義：今後の治療・療養について、患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス

内容：1. 患者本人の気がかりや意向、2. 患者の価値観や目標、3. 病状や予後の理解、4. 治療や療養に関する意向や選好、5. その他提供体制

問2 ACP について、あなたが経験した事例を基に患者、家族、医療者の関わりと課題を述べなさい。

【出題の意図】

近年、ACP は、患者が自身の価値観に基づいた医療やケアを受けられるよう支援する重要なプロセスとして注目されている。しかし、ACP の実践においては、患者・家族・医療者の間で意思決定に関する認識の違いや話し合いのタイミング、意思の尊重と医療的判断のバランスなど、さまざまな課題が生じることがある。

本設問では、受験者自身が経験した事例をもとに、ACP における患者・家族・医療者の関わり方や実践上の課題を考察することを目的としている。

【解答例】

事例：A 氏、肺がん(Stage IIIb) 70 歳代後半、女性

主治医は標準治療を提案したが、A 氏は治療の副作用を懸念し積極的な治療を希望していなかった。一方、家族（特に長女）は「そんなこと言わないで、もっと長く生きて」と涙を流し、治療方針について意見の相違がみられた。

関わり：ACP を進めるにあたり、A 氏、家族、医療者で繰り返し話し合いを行った。看護師は、A 氏の身体症状や精神状態が落ち着いている時に、A 氏の治療方針に関する意向を確認するよう努めた。そして、A 氏の意向を医療者間で共有しディスカッションを重ねた。結果として、家族は A 氏の意向を優先し、負担の少ない緩和的治療を選択することになった。

課題：ACP のタイミング、A 氏と家族の意見の相違、医療者の関わり方の 3 点の課題が明らかとなった。

具体的には、早期のうちに ACP を開始していれば、A 氏と家族の意見の相違を軽減できた可能性がある。また、家族は A 氏の意向を受け入れるまでに時間を要したため、継続的な ACP が必要である。さらに、医療者は中立的な立場を維持し、A 氏の意向の確認や A 氏と家族が納得できるよう情報提供を行う重要性が再認識された。

ACP は今後の治療・療養について、患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセスである。ACP をより円滑に進めるには、早期からの ACP の実施、医療者の中立的な関わりが重要であると考えられる。

看護科学プログラム

受験番号

科目名 小論文・適性検査

分野名 母子看護学

氏 名

(全 1 枚中の 1 枚)

(裏面にわたる場合は、この線より下に解答すること。)

問1. 乳汁産生・分泌状態に関する endocrine control、autocrine control
について説明しなさい。

【出題の意図】

母性看護学の基本学習事項である、哺乳育児支援において、乳汁生産のメカニズムが理解できているかを試す。

【解答例】

1. エンドクリン・コントロール (endocrine control)

細胞から分泌された伝達物質（ホルモンなど）が、血流を経て離れた他の細胞に作用し、機能を調節するしくみ。内分泌による調節。

乳汁産生においては PRL（プロラクチン）が重要な役割を果たす。分娩後、胎盤性ホルモンの血中濃度が低下し、乳汁産生抑制が解除され、PRL が脳下垂体前葉から分泌され、乳汁産生が開始されるが、このプロセスは新生児の吸吮行動によって PRL 分泌が促され、乳房での乳汁産生が調整される。

2. オートクリン・コントロール (autocrine control)

細胞から分泌された伝達物質が、分泌細胞自身に作用し、機能を調節するしくみ。

乳汁が乳房内に貯留することにより、乳腺内圧が高まり、乳汁産生が抑制される仕組み。乳房内に乳汁が残ると、乳腺の分泌上皮細胞が圧迫され血流が低下し、乳汁産生抑制因子（FIL）の濃度が上昇する。この因子が乳糖やカゼインの産生を抑制し、結果として乳汁産生が調整されることになる。

問2. 母乳育児に必要な latch on とは何かを述べなさい。

【出題の意図】

母性看護学の基本となる母乳育児支援の方法について述べることを試す。

【解答例】

ラッチ・オン (latch on) とは、赤ちゃんが母乳を吸う際に、適切に乳頭を口にくわえ、乳房をしっかりと吸着させることを指す。赤ちゃんが正しいラッチ・オンをすることで、効率よく乳汁を吸い取ることができ、母親の乳首に負担がかかりにくくなる。適切なラッチ・オンができていないと、乳首が痛んだり、乳汁の分泌がうまくいなくなる可能性があるため、母乳育児において非常に重要な要素である。

児が適切に乳房にラッチ・オンしているとき、児の口は大きく開き、口唇は外側にめくれるようになっている。アサガオの花やラッパのような形である。また児の舌は下顎の歯茎より前に出て、乳頭・乳輪部に巻きつく、乳頭の先端は児の軟口蓋に達するほど深くラッチ・オンしている。

問3. 母乳育児支援に関する hands on と hands off の援助について述べなさい。

【出題の意図】

母乳育児支援における対象の自律性・援助ニーズについて、十分な理解ができているかを試す。

【解答例】

援助における hands on とは「手を添えて」援助すること、hands off とは「手を触れずに」援助することである。母乳育児支援では2つの援助を適切に用いて支援する。

1. hands on の援助

援助者が母親の乳房や児に触れながらポジショニングやラッチ・オンを援助することである。搾乳を介助することなども含まれる。

2. hands off の援助

援助者は母親や新生児に極力触れないように支援する。口頭での説明や乳房模型と新生児人形を使ってモデルを示すなどの方法で、母親自身が正確なポジショニングとラッチ・オンを習得することがポイントである。この方法は、母乳育児に対する自信やセルフケアの向上、母乳育児継続につながるといわれている。婦が自身の身体をコントロールできる状態であることが必要である。

3. hands on と hands off の援助をどのように用いるか

産褥入院期間、分娩後の心身の回復状態、退院後の継続支援など、総合的にアセスメントして決めるとよい。母子の健康状態に問題がなければ母親と相談しながら hands off の援助だけで支援することも可能である。

1) hands off の援助方法

- 1 援助者は椅子に腰かけて視線を合わせ、ゆったりとした態度で支援する。
- 2 児の母乳を欲しがらるサインや覚醒状態、哺乳意欲などに母親の関心が向くよう支援する。
- 3 児の抱き方、乳房の支え方、乳頭の含ませ方、適切なラッチ・オンのサイン、適切な授乳姿勢のポイントについて説明しながら模型を使ってモデルを示す。
- 4 母親が授乳しやすい安定した姿勢で同時に児が哺乳しやすい姿勢となる抱き方を見つけられるよう支援する。妊娠中から模型や新生児人形を使ってポジショニングやラッチ・オンの練習をしておくにより効果的である。

2) hands on の援助が有用な場合

- 1 経分娩直後や帝王切開術後など、褥婦が自身で身体活動を自由に行えない場合
- 2 hands off の援助では適切なポジショニングやラッチ・オンができず母親が援助を求める場合
- 3 安静や休息が必要な母親の搾乳介助など